

News Release

2026年4月10日
株式会社ビーエムジー

4℃環境下での細胞保存を実現する保存液「AZ PRESERVER」を発売

株式会社ビーエムジー（本社：京都府京都市、代表取締役社長：玄 丞然、以下「ビーエムジー」）は、哺乳類細胞およびオルガノイドの低温保存を可能とする保存ソリューション「AZ PRESERVER（以下「本製品」）」を、2026年4月より発売いたしましたので、お知らせいたします。

本製品は、従来主流である凍結保存（液体窒素、超低温フリーザー、ドライアイス等）に依存せず、一般的な冷蔵温度帯（4℃）において細胞の生存性を維持したまま保存・輸送することを可能とする新しい技術です。

製品特長

本製品は、細胞保存時に生じる低温ストレスを低減し、細胞の生存性を維持することを目的として開発された保存液です。細胞培養液を本製品に置換するのみで使用可能であり、凍結や解凍といった操作を必要としません。

これにより、従来の凍結保存に伴う設備依存性や操作負担を軽減し、簡便かつ安定した細胞の保存・輸送を実現します。

開発背景

再生医療および創薬分野においては、細胞の品質を維持したまま輸送・保管することが重要な課題とされてきました。

従来は凍結保存が前提であり、液体窒素やドライアイス等を用いた輸送が必要となるため、コストや設備、取り扱いの面で制約が存在していました。また、解凍時の細胞ダメージや操作の煩雑さも課題とされていました。

本製品は、これらの課題を背景として開発され、冷蔵環境下での細胞保存という新たな選択肢を提供するものです。

技術的特長

本製品を用いた評価において、以下の結果が得られています（自社データ）。

- ・ iPS 細胞：1週間以上の保存が可能
- ・ MSC（間葉系幹細胞）：高い生存性および機能維持を確認

- ・ 分化細胞、細胞シート等への適用可能性を確認

期待される効果

本製品の活用により、細胞を冷蔵温度帯で輸送することが可能となり、従来の凍結輸送と比較して輸送コストの低減および取り扱いの簡便化が期待されます。

また、長距離輸送への適用可能性も示唆されており、再生医療および細胞治療の実用化・産業化における課題解決に寄与することが期待されます。

製品概要

製品名：AZ PRESERVER

用途：哺乳類細胞およびオルガノイドの保存（研究用）

発売日：2026年4月

販売：フナコシ株式会社

※本製品は研究用です。研究用以外には使用できません。

ビーエムジーについて

ビーエムジーは、京都大学発のバイオマテリアルベンチャーです。創業以来、生体吸収性ポリマーの開発・製造を通じて、医療分野における材料技術の高度化に取り組んできました。

近年では、医療用高分子技術を基盤として、細胞保存技術や再生医療関連分野へと事業領域を拡大しており、革新的なソリューションの提供を目指しております。

会社名：株式会社ビーエムジー

所在地：京都市南区東九条南松ノ木町45番地

代表者：代表取締役社長 玄 丞侏（げん しょうきゅう）

設立：1983年6月28日

URL：<https://www.bmg-inc.com/>

報道関係のお問い合わせ先

株式会社ビーエムジー 専務取締役 玄 優基

TEL：075-681-0787

E-mail：business@bmg-inc.com